



祝！世界遺産登録

〔明治日本の産業革命遺産〕

福岡県の産業遺産を旅する
～石炭から製鉄まで～

た ん こ う 本

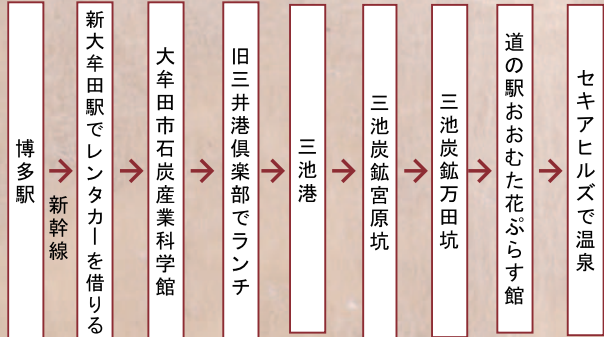
■ 各地から福岡県へのアクセス

主な空路		※所要時間は目安です	
出発地	到着地	所要時間	会社名
札幌(新千歳)	福岡	2時間20分	JAL・ANA・SKY
東京(羽田)	福岡	1時間35分	JAL・ANA・SKY・SFJ
東京(成田)	福岡	1時間50分	JAL・ANA・JJP・APJ
新潟	福岡	1時間30分	ANA・FDA
静岡	福岡	1時間25分	FDA
松本	福岡	1時間30分	FDA
名古屋(小牧)	福岡	1時間20分	FDA
名古屋(中部)	福岡	1時間15分	ANA・SFJ・JJP・IBX
大阪(関空)	福岡	1時間5分	ANA・APJ・JJP
大阪(伊丹)	福岡	1時間10分	JAL・ANA・IBX
沖縄(那覇)	福岡	1時間35分	ANA・SKY・JTA・APJ
東京(羽田)	北九州	1時間35分	JAL・SFJ
名古屋(小牧)	北九州	1時間20分	FDA

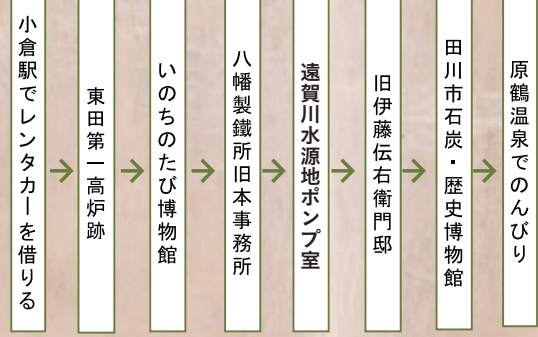
JR		※所要時間は新幹線はのぞみ利用の場合、特急は最速時分です	
出発地	到着地	所要時間	
東京	博多	4時間55分	新幹線利用
名古屋	博多	3時間20分	
新大阪	博多	2時間25分	
岡山	博多	1時間40分	
広島	博多	1時間	特急利用
佐賀	博多	35分	
長崎	博多	1時間50分	
熊本	博多	35分	九州新幹線利用
鹿児島中央	博多	1時間20分	
大分	小倉	1時間20分	特急利用
宮崎	小倉	4時間25分	
小倉	博多	16分	新幹線利用

電車・バスのお得な切符情報			
■西鉄電車・バス共通1日フリー乗車券「FUKUOKA 1DAY PASS」			
大人	2,060円	小児	1,030円
■西鉄バス・北九州都市圏1日フリー乗車券			
大人	720円	小児	360円
■西鉄電車・大牟田ぶら～っと炭訪きつぷ(期間限定)			
西鉄電車往復乗車券(出発駅⇨大牟田駅)と、タクシー乗車の利用、洋風かつ丼やお好み焼きなどの食事、お土産などに使える大牟田名物利用券3,000円分 (1,000円×2枚、500円×2枚)		2,520円 (小児用はありません)	
■西鉄電車・太宰府・柳川観光きつぷ(いちにち紀行)			
西鉄電車往復乗車券「福岡(天神)駅または薬院駅⇨太宰府駅⇨柳川駅」と、川下り乗船券「柳川観光開発乗船場⇨沖端(下船場)」※他にも太宰府・柳川のおとくな切符あり		大人 2,930円 小児 1,420円	
■西鉄バス・官営八幡製鉄所 旧本事務所眺望スペース周遊バス(土日祝日のみ運行)			
スペースウォルト駅⇨旧本事務所眺望スペース⇨北九州イノベーションギャラリーの周遊バス(無料)			
■西鉄バス・筑豊特急線「でんえもん号」1日3往復			
西鉄天神高速バスターミナル⇨嘉穂劇場入口		930円(所要時間56分)	
西鉄天神高速バスターミナル⇨幸袋・旧伊藤伝右衛門邸前		980円(所要時間64分)	
■西鉄バス・筑豊特急線「バイパス直行」平日1日14往復、土日祝日1日13往復			
西鉄天神高速バスターミナル⇨石炭記念公園口		1,490円(所要時間約74分)	

1DAY 福岡発おすすめルート



1DAY 小倉発おすすめルート



出発地	到着地	所要時間	会社名
ソウル	福岡	1時間20分	KE・OZ・LJ・TW・7C
上海	福岡	1時間40分	CA・MU
北京	福岡	4時間35分	CA・MU
台北	福岡	2時間15分	BR・CI・CX

JAL 日本航空	KE 大韓航空
ANA 全日空	OZ アシアナ航空
SKY スカイマーク	CZ 中国南方航空
JJP ジェットスター	CA 中国国際航空
APJ ビーチ	MU 中国東方航空
FDA フジドリームエアラインズ	BR エバー航空
JTA 日本トランスオーシャン航空	CI チャイナエアライン
SFJ スターフライヤー	CX キャセイパシフィック航空
IBX アイベックスエアラインズ	LJ ジンエアー
	TW ティーウェイ航空
	7C チェジュ航空

レンタカー・レンタサイクル情報

<北九州地区>		
駅名	事業者	
小倉駅	駅レンタカー九州 小倉駅営業所	☎093-531-1942
	オリックスレンタカー 小倉駅新幹線口	☎093-533-0821
	スカイレンタカー九州 小倉駅営業所	☎093-531-8866
	トヨタレンタリース博多 小倉駅前店	☎093-511-0100
	トヨタレンタリース福岡 小倉駅南口店	☎093-512-1400
	日産レンタカー 小倉新幹線駅前店	☎092-521-0397
	ニッポンレンタカー 小倉駅新幹線口店	☎093-521-8511
	バジェットレンタカー小倉駅前店	☎093-512-0543
八幡駅	タイムズカーレンタル 小倉駅新幹線口店	☎093-533-1616
	トヨタレンタリース八幡東店	☎093-681-3500
<筑豊地区>		
直方駅	トヨタレンタリース博多 直方店 オリオンレンタカー	☎0949-28-0100 ☎0949-24-2921
飯塚駅	トヨタレンタカー飯塚駅前店	☎0948-21-0100
新飯塚駅	駅レンタカー新飯塚駅店	☎0948-22-0421
<大牟田地区>		
大牟田駅	(レンタサイクル) 1日 500円 1時間 150円/30分毎に50円 連絡先 西鉄大牟田駅	☎0944-53-0071
	1日 500円 連絡先 大牟田観光プラザ	☎0944-52-2212
	(レンタカー) トヨタレンタカー大牟田店	☎0944-52-0100
	ニッポンレンタカー大牟田店	☎0944-51-8696
	タイムズカーレンタル大牟田駅前店	☎0944-43-4300
新大牟田駅	駅レンタカー新大牟田駅営業所	☎0944-58-2216

現代日本の礎を築いた産業革命

江戸幕府により200年以上に亘る鎖国時代を送った日本。その終焉は、新たな時代の幕開けでもあった。19世紀後半の明治維新以降、明治政府は目の当たりにした欧米列強との国力の差を何としても取り戻し、世界情勢の中で自国の地位を確立するため「富国強兵」をスローガンに国家の近代化を目指した。日本の基幹産業は、繊維工業などの軽工業から、鉱業、製鉄、造船といった重工業へ。この大きな変化は後の時代に「明治日本の産業革命」と呼ばれるようになる。そして産業革命の動力となったのが「石炭」であった。

経済発展の影に、福岡の石炭産業

石炭は、古くから「燃える石」と呼ばれ一部の家庭では燃料として使用されてきた。しかし、重工業の発展を受け燃料としてだけでなく製鉄の原料になる石炭の需要は飛躍的に増大。国産石炭産出のため全国各地で炭鉱が開かれ、多くの人が石炭採掘事業に関わっていった。当時、福岡県は全国有数の石炭産出量を誇った一大産地であり、なかでも日本一の炭田と呼ばれた飯塚市・田川市・直方市を中心とした県中央の地域「筑豊エリア」、三井財閥が運営した三池炭鉱を有する「大牟田エリア」の存在は、日本の重工業の発展に大きな影響を与えた。

八幡製鐵所が果たした役割

工業化を目指す日本は、国産鋼材の生産、製鉄所の建設に乗り出す。全国の候補地の中から選ばれたのが、筑豊エリアを背後に持つ北九州・八幡。ここに明治政府の威信を掛けた国家プロジェクト「官営八幡製鐵所」が建設された。当時世界最先端といわれたドイツの製鉄所の技術を導入し、1901（明治34）年に完成。その後、絶え間ない技術開発によって明治時代の殖産興業から第二次世界大戦後の経済復興、高度経済成長など時代ごとの経済発展に大きく貢献した。現在、日本は海外への輸出高が1年間に約11兆円（2014年、総務省調べ）という自動車産業を筆頭に、鉄鋼、機械、造船などあらゆる重工業の各分野で世界を牽引する立場となった。近代に撒かれた製鉄という種は、「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と呼ばれた1960年代の高度経済成長期に花開き、現代のものづくり国家・日本の確立に繋がったといえよう。その背景には、こうした福岡の各エリアの産業が鍵となったといっても過言ではないだろう。

北九州 筑豊 エリア

「筑豊」とは、現在の飯塚市・田川市・直方市を中心とした県中央のエリアのこと。江戸時代から石炭産地として知られており、塩田で塩水を煮詰める燃料として使用されることで大量に産出されるようになった。明治に入り「鉱山解放令」が發布されると、民間の鉱山開発が可能となり、小規模の鉱山がいくつも開山。「筑豊炭田」と呼ばれるようになっていった。この「筑豊」という名称も、石炭産業の隆盛から生まれたものだということをご存知だろうか。炭鉱主たちが競うように鉱山開発を進めていたこの地域に行政指導が入り、かつてこの地を治めていた旧藩の領域を越え同業組合「筑前国豊前国石炭坑業人組合」が結成された。翌1886（明治19）年に「筑豊五郡川棚（かわひらた）同業組合」が設立。この頃初めて「筑豊」の表記が登場する。筑豊炭田には、三菱などの財閥だけでなく地場資本の炭鉱主たちが多く存在した点が特徴的だ。代表的なのは「筑豊御三家」と呼ばれる麻生家、安川家、貝島家。そ

して、炭鉱王と称された伊藤伝右衛門や蔵内次郎作らの名が挙げられるだろう。彼らは石炭採掘を主軸に自らの事業を大きく展開し産業を活性化。そしてその利益を地域の教育や医療、文化振興などに投じ、地域全体の生活水準の向上に貢献した。筑豊炭田から産出された石炭は鉄道を使い、各地から直方駅を経由し積出港である若松港へと集積、搬出されていった。明治政府が一大国家プロジェクトとして取り組んだ「鋼材を生産する製鉄所」の建設が現在の北九州市八幡に決定された大きな要因も、燃料であり製鉄の原料ともなる石炭を安定供給できる筑豊炭田の存在が大きい。東洋陶器（現在のOTTO）や黒崎窯業（現在の黒崎播磨、設立者は安川敬一郎）など、現在世界で活躍するトップ企業も多く誕生。現代日本の経済基盤を支える北九州工業地域の基盤が築かれていった。

かつて三井財閥が運営していた「三池炭鉱」があり、現存する「宮原坑」が当時の様子を現代に伝えている。1889（明治22）年、三井組（三井鉱山）が払い下げを受けて経営を引き継ぎ、以降は大牟田市に隣接する熊本県荒尾市の「万田坑」と合わせ日本最大規模の炭鉱へと成長していった。三池炭鉱の規模が拡大した背景には、石炭輸送のために整備された「三池港」の存在も大きい。有明海は遠浅で干満の差が大きい。大型の運搬船は直接入港することが出来なかったが、三井鉱山専務理事を務めた團琢磨が

指揮を執り、国内では珍しい閘門（こうもん）を持つ港を整備。これにより1万トンクラスの大型船での直接輸送が可能となり、海外への石炭輸出货量も飛躍的に拡大した。團琢磨は三池港整備にあたり「石炭山の永久ということはありはせぬ。築港をやればそこにまた産業を興すことができる。築港をしておけば、いくらか百年の基礎になる」と語った。その言葉通り、三池港は整備より100年が経った現在も稼働し続け、世界に開かれた国際物流拠点としての役割を担い続けている。

大牟田 エリア

福岡と熊本県の県境に位置する大牟田市。西側に有明海を、東側に三池山を臨む、炭鉱の隆盛で栄えた町だ。この地には、



福岡県の産業遺産 & 観光MAP

- 1 三池炭鉱宮原坑 〈P5〉

2 三池炭鉱万田坑 〈P6〉

3 三池港 〈P6〉

4 官営八幡製鐵所旧本事務所 〈P6〉

5 官営八幡製鐵所旧修繕工場 〈P6〉

6 官営八幡製鐵所旧鍛冶工場 〈P6〉

7 遠賀川水源地ポンプ室 〈P6〉

8 嘉穂劇場 〈P8〉

9 太宰府天満宮 〈P8〉

10 宝満宮 竈門神社 〈P8〉

11 遠賀川 〈P8〉

12 堀川 〈P8〉

13 勝盛公園 〈P8〉

14 麻生大浦荘 〈P8〉

15 九州工業大学 〈P9〉

16 西日本工業倶楽部 〈P9〉

17 ロボット村 〈P9〉

18 筥崎宮 〈P9〉

19 石炭会館 (旧若松石炭商同業組合事務所) 〈P9〉

20 宮若市石炭記念館 〈P10〉

21 友泉亭 (貝島健次郎邸) 〈P10〉

22 旧高宮貝島邸 〈P10〉

23 圓徳寺 〈P10〉

24 貝島邸跡 〈P10〉

25 旧三井田川鉱業所伊田坑 〈P11〉

26 田川市石炭・歴史博物館 〈P11〉

27 直方市石炭記念館 〈P11〉

28 三菱鉱業飯塚炭礦石炭巻上機台座 (P11)

29 直方歳時館 〈P11〉

30 旧伊藤伝右衛門邸 〈P11〉

31 東田第一高炉史跡広場 〈P11〉

32 旧藏内邸 〈P11〉

33 飯塚市歴史資料館 〈P11〉

34 若松港 〈P11〉

35 河内貯水池 〈P11〉

36 藤江氏魚楽園 〈P13〉

37 上野焼陶芸館 〈P13〉

38 いのちのたび博物館 〈P13〉

39 道の駅おとう桜街道 〈P13〉

40 旧三池集治監外堀および石垣 〈P15〉

41 三川坑 〈P15〉

42 旧三井港倶楽部 〈P15〉

43 旧長崎税関三池税関支署 〈P15〉

44 大牟田市石炭産業科学館 〈P15〉

45 宮浦石炭記念公園 〈P16〉

46 旧三川電鉄変電所 〈P16〉

47 大牟田市役所本庁舎旧館 〈P16〉

48 化学コンビナートの夜景 〈P16〉

49 三池カルタ歴史資料館 〈P17〉

50 大牟田市動物園 〈P17〉

51 道の駅「おおむた」花ぶらす館 〈P18〉

52 普光寺 〈P18〉

53 満月の湯 〈P18〉

54 八女伝統工芸館 〈P18〉

55 柳川川下り 〈P18〉

56 いぶき館 〈P22〉

57 小石原焼伝統産業会館 〈P22〉

58 第一坑跡 〈P22〉

59 高取焼宗家 〈P22〉

60 英彦山スロープカー 〈P22〉

61 英彦山神宮 〈P22〉

62 三菱新入炭鉱鞍手巻き揚げ機台座

63 新目尾炭鉱坑口 (日満鉱業株式会社)

64 三菱新入炭鉱 G 坑巻き揚げ機台座

65 旧志免鉱業所竪坑槽

66 須恵町立歴史民俗資料館

67 屋根のない博物館

68 旧大正鉱業中鶴炭鉱ボタ山

69 めがね橋

70 仲原炭鉱の竪坑跡

71 住友石炭鉱業忠限炭鉱ボタ山 (筑豊富士)

72 旧古河鉱業若松ビル

73 旧門司三井倶楽部

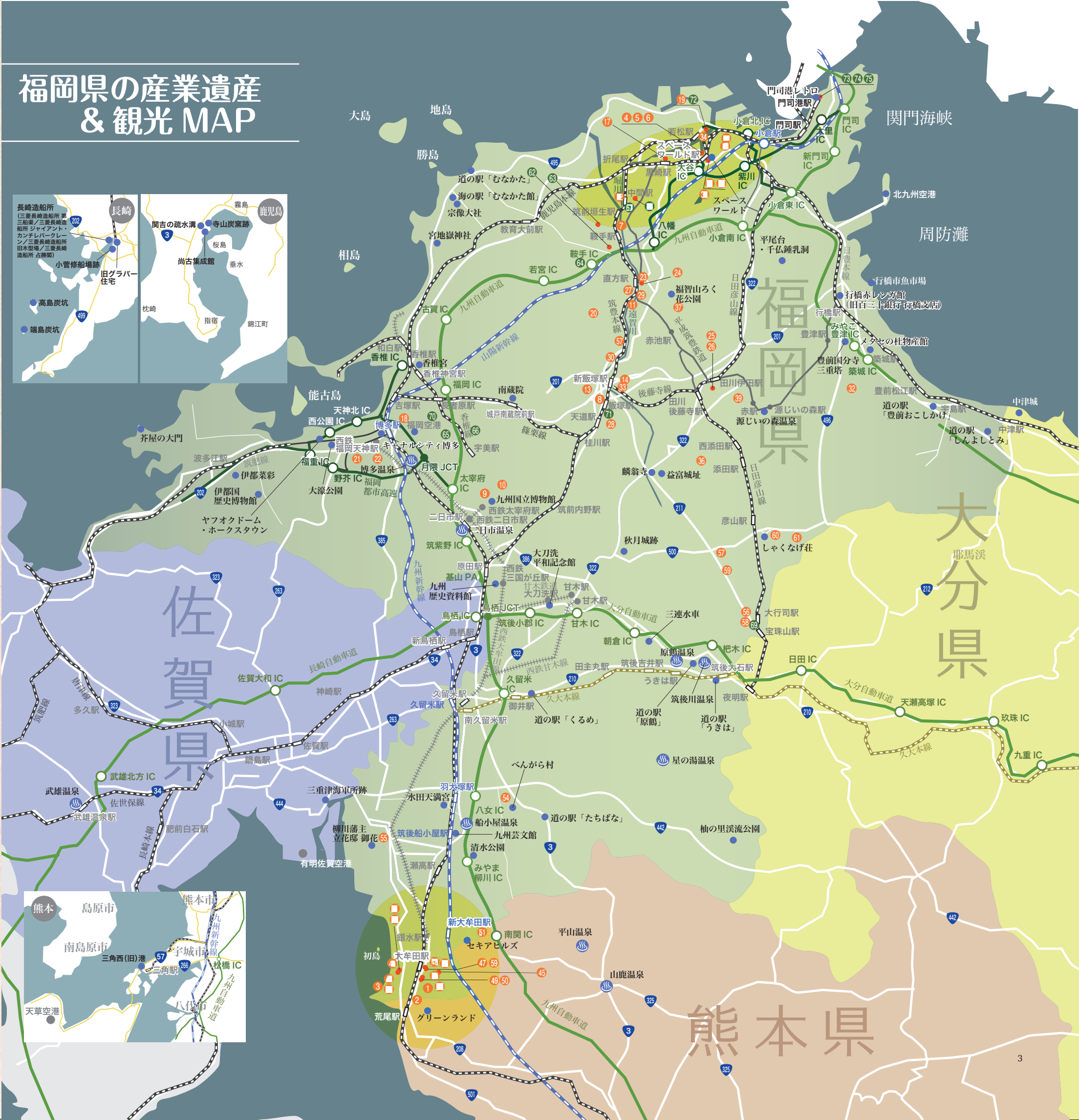
74 旧九州鉄道本社 (現九州鉄道記念館)

75 旧門司税関

MAP について

- パンフレット内で紹介している世界文化遺産、産業遺産、観光スポット
- その他の産業遺産

◎別枠の地図は、九州内にある福岡県外の世界文化遺産です。
◎地図内の駅は、"主要な駅のみ、掲載しています。"



「明治日本の産業革命遺産」
福岡県内に現存する構成資産 （一部熊本県あり）

祝！世界遺産登録

「明治日本の産業革命遺産」

2015年7月5日、ユネスコ世界遺産委員会において「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産に登録されることが決定した。世界文化遺産には、歴史的・学術的に「顕著な普遍的価値」を持つ遺跡や建築物などが登録される。今回の世界文化遺産登録決定は、世界的な目線から見ても、そのような普遍的価値を持つのだろう。それは、西洋から非西洋への産業化の移転が成功したことを証言する産業遺産群であるという点が大きい。「産業革命」とは18世紀半ばにイギリスで興り、それに続くフランス、アメリカ、ドイツなどの欧米諸国で発生した急速な工業化の動きを指す。この世界の変化を目の当たりにし、非西洋諸国で初めて急速な産業発展、近代化を果たしたのが、日本である。幕末期の日本は、海の向こうに見える欧米列強の国力に大きな衝撃を受ける。有史以来大きな影響を受けてきた中国（清）が1840年のアヘン戦争で敗北を期したことも、大きな焦燥感を生んだ。先進的な意識を持つ幾つかの藩は独自に藩内軍事技術の開発を進め、薩摩藩の「集成館」、佐賀藩の「三重津海軍所」に代表される施設が造られていく。そして明治維新を経て発足した明治政府の政策を受け、製鉄・製鋼、造船、石炭産業をより発展させるため、福岡の「三池炭鉱（一部は熊本県内）」や「官営八幡製鐵所」「遠賀川水源地ポンプ室」などが建設。日本は非西洋諸国で初めて、僅か50年余りで産業化を成就した。「明治日本の産業革命遺産」の構成資産は8県11市23資産から構成される。福岡県内にある資産群は、産業革命の成熟期を支えた貴重な遺構として、世界の人々にその歴史を語り続けている。

官営八幡製鐵所修繕工場

（非公開）



1900（明治33）年、ドイツのグーテホフ・マックス・ヒュッテ社の設計・鋼材で建設された。製鐵所で使用する機械の修繕、部材の製作加工、組み立てなどを行う工場で、官営八幡製鐵所の機械工場群の中心的施設。この建物の使用鋼材は、増築されるにつれ、ドイツのものから、最終的に八幡製鐵所のものが使われており、日本の製鉄技術の発展過程を示す重要な鉄骨建築物。

官営八幡製鐵所旧鍛冶工場

（非公開）

1900（明治33）年、修繕工場と同じくドイツのグーテホフ・マックス・ヒュッテ社の設計・鋼材で建設された。当時としては極めて大型の350トン水圧プレス機械などが設置され、製鐵所建設に必要な鍛造品が製造された。当初、修繕工場の北側に建設されたが、大正時代中期に現在地に移築。製品試験所として使用された。



官営八幡製鐵所
遠賀川水源地ポンプ室 （内部非公開）



1910（明治43）年、官営八幡製鐵所第一期拡張工事に伴い、鉄鋼生産に不可欠な工業用水の取水・送水施設として遠賀川東岸に建設された。建屋はイギリス積の赤煉瓦を主体とし、一部アクセント的に鉑煉瓦が使用されている。現在も八幡製鐵所の鉄鋼生産に必要な工業用水の約7割を送水している。（非公開施設だが、外から見学する場合は中間市地域交流センターに無料駐車場あり）

三池炭鉱 万田坑 （熊本県荒尾市）

1902（明治35）年に開発された、宮原坑に続く主力坑。1951（昭和26）年まで採炭が行われていた。第二堅坑槽、巻揚機、旧扇風機室などが現存、保存されている。



三池炭鉱 専用鉄道敷跡

三池炭鉱の各坑口で産出される石炭や資材の運搬、工場の製品・原材料の輸送するために敷設された専用鉄道。三池炭鉱が三井に払い下げられた後に、鉄道の設計が開始され、1905（明治38）年には三池港まで繋がっている。

三池港

1908（明治41）年に竣工した石炭輸送の積み出し港。干満の差が激しい有明海でも大型の運搬船が入港ができるよう、水位の調節が出来る閘門（こうもん）ドックが整備された。



三角西（旧）港 （熊本県宇城市）

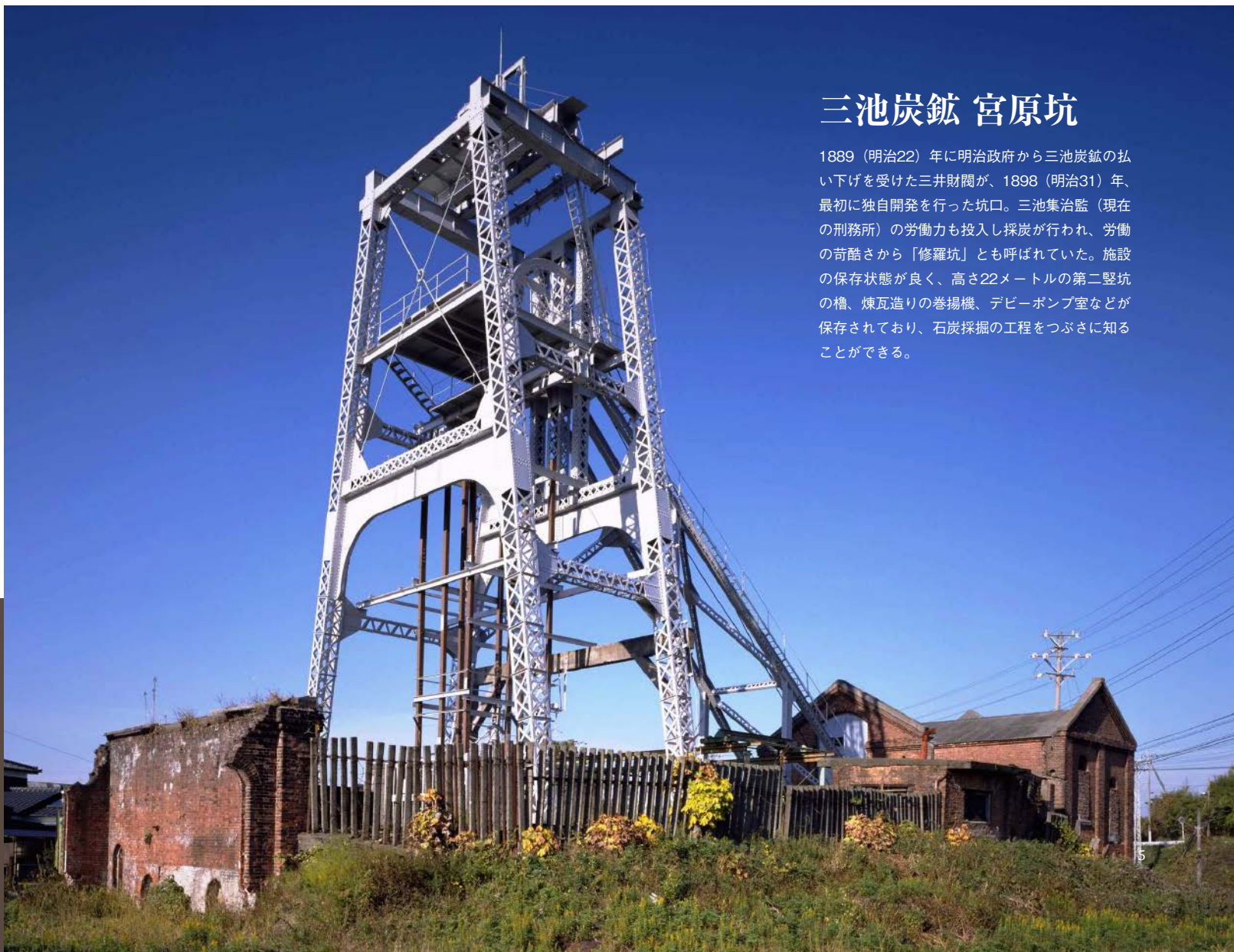


三池炭鉱から産出される石炭の積出港として活躍。上海などへの輸出が行われた。1887（明治20）年に開港。日本でただひとつ明治期の港湾施設が完全な形で残る貴重な存在。

官営八幡製鐵所旧本事務所

（内部非公開）

1899（明治32）年に完成。長官室、顧問技師室、技監室、主計室などがある製鐵所の初代本事務所。中央にドームを持つ左右対称の意匠で、和瓦葺、洋式の木製小屋組、イギリス式の煉瓦積となっているなど、日本と西洋の建築様式が融合した煉瓦建築物。（内部非公開だが外観を見学出来る眺望スペースあり）



三池炭鉱 宮原坑

1889（明治22）年に明治政府から三池炭鉱の払い下げを受けた三井財閥が、1898（明治31）年、最初に独自開発を行った坑口。三池集治監（現在の刑務所）の労働力も投入し採炭が行われ、労働の苛酷さから「修羅坑」とも呼ばれていた。施設の保存状態が良く、高さ22メートルの第二堅坑の槽、煉瓦造りの巻揚機、デビーポンプ室などが保存されており、石炭採掘の工程をつぶさに知ることができる。

おすすめ見学ルート

〈三池エリア〉



石炭産業科学館

宮原坑

旧三井港倶楽部でランチ

三川坑 （全日祝のみ公開）

三池港

万田坑 （熊本県荒尾市）

道の駅おおむた花ぶらす館

山鹿温泉でのんびり

〈八幡エリア〉



旧本事務所眺望スペース

東田第一高炉跡

いのものたび博物館

北九州イノベーションセンター

遠賀川水源地ポンプ室

皿倉山の夜景

問 福岡県企画・地域振興部総合政策課世界遺産登録推進室 TEL092-643-3162 写真提供：新日鐵住金（株）八幡製鐵所／大牟田市／荒尾市教育委員会／宇城市

「明治日本の産業革命遺産」<http://www.kyuyama.jp/>

世界遺産 九州山口 で検索



客席や舞台、奈落、控え室などが見学できる。舞台上に設置されている人力操作の廻り舞台は必見！

「嘉穂劇場」

1922（大正11）年、嘉穂劇場の前身「中座」が麻生太吉の弟・太七により建設された。「炭鉱で働く人たちとその家族のための娯楽施設を」と、大阪にあった中座劇場をモデルにして造られた大衆劇場で、こけら落としに六代目尾上菊五郎を招くなど、華々しい幕開けを飾った。娯楽の少ない時代、笑顔や感動を求め連日大勢の観客が押し寄せたという。しかし、1928年漏電による火災で全焼。ただちに再建されるも、新築落成からわずか1年も経たないうちに台風を受けて倒壊してしまった。現在の嘉穂劇場は、1931年に伊藤隆氏により建設されたもの。入母屋づくりの外観に直径16メートルの廻り舞台、東西の花道を備え、歌舞伎小屋の歌様式を踏襲する本格劇場として、現在も多くの観客に感動を与え続けている。公演日以外には劇場内を見学することもできるので、気軽に訪れてみよう。



⑨ 飯塚市飯塚5-23
☎ 0948-22-0266
⑩ 9:00～17:00
⑪ 12/31～1/4
⑫ 300円（見学科）
＊公演日は見学不可。要確認

「太宰府天満宮／宝満宮 竈門神社」

寄付などの慈善活動が大きく話題に取り上げられることを好まなかった麻生太吉だが、寺社仏閣への寄付は「炭鉱で働く人たちが参拝の際に“麻生”の名を見ることが、神仏の加護が自分たちにもあるかもと嬉しく思ってくれるように」と考え積極的に名前を残したという。太宰府天満宮の参道には一対の石灯笼を、宗像市の宗像大社には一之鳥居を寄贈した。また、大宰府政庁の鬼門にあたる竈門神社修復の際は太宰府天満宮からの参拝客のために赤煉瓦積みのトンネルを掘削寄進している。

〔太宰府天満宮〕
⑨ 太宰府市宰府4-7-1
☎ 092-922-8225

〔竈門神社〕
⑨ 太宰府市内山883
☎ 092-922-4106



「麻生大浦荘」

麻生太吉の長男・太右衛門の住宅として建築された和風入母屋書院造りの邸宅。建材は杉や桧を主に使い、精密な細工を施した欄間や折上格天井の洋広間など、当時の建築技術の粋を至る所に見つけることができる。現在は、年に2回、春の雛祭りシーズンと秋の紅葉シーズンに一般公開されており、多くの見物客で賑わう。

⑨ 飯塚市立岩1060
☎ 0948-22-3511（飯塚観光協会）
＊公開期間などは要確認

「勝盛公園」

広大な敷地の中に桜やツツジなどの花木や朱色の太鼓橋が掛かる池、小高い丘を有する公園で、多くの飯塚市民たちの憩いの場所として長く愛されている。かつては約4900坪の敷地面積だったが、1935（昭和10）年に麻生太吉の孫の太賀吉が市民の憩いの場所になればと公園に隣接する約8900坪の土地を飯塚市に寄贈。「鶴山遊園地」という名で一般開放。後に旧勝盛公園と一本化された。

⑨ 飯塚市片島1-607-1
☎ 0948-22-5500（飯塚市役所）



「遠賀川」

町と町とを繋ぐように緩やかに流れながら玄界灘へと注ぎ込んでいく遠賀川。かつては大雨の度に氾濫を起こす暴れ川で、福岡藩初代藩主黒田長政も洪水緩和のため遠賀川の改修工事に着手。その後、六代藩主黒田継高の時代に「堀川の中門唐戸」など遠賀堀川が完成したが、石炭隆盛の明治時代に入っても頻度は減ったものの遠賀川の氾濫は収まらなかった。鉄道が敷かれるまでは、遠賀川から堀川を通じて「川ひらた」と呼ばれる小舟で石炭を運んでいたため、度重なる氾濫に頭を抱えていた麻生太吉ら炭鉱主たちは立ち上がり、協力し合って遠賀川の改修工事へと乗り出した。明治政府にも掛け合って大規模な予算計上に成功。曲がりくねった川の流れを直線化し、川幅を拡幅、堤防の補強などを行い、現在の姿に近い遠賀川へと生まれ変わったのである。

貝島太助



筑前国鞍手郡直方町（現・直方市）に農民の子として生まれ、8歳の頃から坑内で働き始める。結婚した後、夫婦で行商や旅館経営を行う。1885（明治18）年に大之浦炭鉱（現・宮若市）を開坑。鉱区を広げ、好景気に乗り事業を拡大するが、後年は石炭鉱業に再び専念する。地域の子供たちの教育に力を注ぎ、私財を投じて、大之浦、満之浦、菅牟田小学校を創立。その他、貝島育英会を組織して学資補助を行っている。

安川敬一郎



福岡藩士徳永家の四男として生まれる。藩校・修猷館に学び、藩命による藩外留学を経験し、慶応義塾に入學するが、佐賀の乱における兄・幾島の戦死の報を受けて退学・帰郷する。兄の継業であった炭鉱事業を拡大させ、明治鉱業を設立。九州製鋼（新日本製鐵に統合）、黒崎窯業（現・黒崎播磨）を設立し、安川財閥の基盤を築いた。若松築港会社の会長として若松港の整備に尽力。赤池鉱山学校、明治専門学校（現・九州工業大学）を開校するなど業界の人材育成にも力を注いだ。中国の革命家・孫文への支援を惜しまなかったことでも知られ、明治専門学校では孫文による講演も行われた。

※安川電機創業者は息子の第五郎

麻生太吉



嘉麻郡（現・飯塚市）の庄屋の長男として生まれ、1872（明治5）年に目尾御用山にて石炭採掘事業に着手し、麻生商店を設立。嘉穂銀行、九州鉄道、飯塚病院、電気事業、セメント事業など様々な事業を展開し、各分野の発展に大きく貢献した。炭鉱病院として設立した飯塚病院は、その後、一般に開放し診療を行う。地域との関わりを大切にするという太吉の想いを継いだ後継者たちによる嘉穂劇場や公園の設立など文化面での貢献も大きい。

筑豊炭田の隆盛とそれを支えた男たち

飯塚、田川、直方を中心としたその周辺地域は、明治から昭和にかけて「筑豊炭田」と呼ばれる全国トップクラスの一大採炭地として知られていた。三池炭鉱との大きな違いは、一帯の炭鉱事業を巨大資本の一家が官営からの払い下げを受けて運営していたのではなく、地場資本の事業者たちが中小規模の炭鉱を運営していた点にある。明治時代に出された「鉱山解放令」により民間の自由掘りが認可されると、多くの人々が筑豊の地へと流入、中央からも三井や三菱などの大財閥が事業に乗り出していった。そうした中、地場の炭鉱主たちの間で、特に著しい事業成長を遂げた「筑豊御三家」と呼ばれる男たちがいた。飯塚市内の芳雄炭鉱などの石炭採掘だけでなくセメントや電気、鉄道など様々な事業を展開した「麻生太吉」。嘉穂郡（現在の

飯塚市）に本社を置く石炭事業の明治鉱業株式会社、そのほか、九州製鋼（新日本製鐵に統合）、黒崎窯業（現・黒崎播磨）などを設立した「安川敬一郎」。旧宮田村（現在の宮若市）で創業し、石炭時代を最後まで支えた貝島炭礦の「貝島太助」。彼らは事業を拡大して地域の産業・経済を潤すとともに、地域社会への還元を掲げ医療や教育、文化振興、インフラ整備などに注力。筑豊エリア全体の生活水準の向上へと繋げていった。さらに、中鶴炭鉱（中間市）や宝珠山炭坑（東峰村）を経営し巨万の富を築いた「伊藤伝右衛門」、峰地炭鉱（田川郡添田町）や足立炭鉱（小倉北区）を経営した「藏内次郎作」など、炭鉱王と呼ばれた事業者たちが中心となり、筑豊炭田の隆盛を支えていった。

炭鉱長屋を再現した産業ふれあい館（田川市石炭・歴史博物館）





「宮若市石炭記念館」

貝島太助が貝島炭鉱を創業したのは旧宮田村（現在の宮若市）。この発祥の地で、炭鉱で働く労働者の子供たちのため貝島太助が1888（明治21）年に設立した私学が「大之浦小学校」である。昭和に入り公立へと移管、校舎が木造から鉄筋へと建て替えられるが、大之浦小学校の歴史は閉校を迎える1974（昭和49）年まで続く。その後、校舎を活用し1977（昭和52）年に「石炭記念館」が誕生。石炭時代を最後まで支えた貝島炭鉱と貝島一族の歴史を資料やパネルでわかりやすく解説している。昭和時代の小学校の教室をそのまま保存展示しており、賑やかな子供たちの笑い声が聞こえてきそう。懐かしさに思わず涙ぐむ団塊世代の姿も。屋外には土砂の運搬に使われていたCサイドタンク式機関車が展示されている。

⑨宮若市上大隈573 ⑩月曜、木曜の午後、年末年始
☎ 0949-32-0404 ⑪無料
⑫9:00 ～ 17:00

「友泉亭（貝島健次別邸）」

福岡藩六代藩主黒田継高が別邸として造営、「友泉亭」と名付ける。廃藩置県後、小学校や村役場、駐在所などに使用されるが、1936（昭和11）年に貝島太助の三男・健次が買い取り、建物や庭園などの改築改修を行い、別邸として使用している。1978（昭和53）年に福岡市が取得した際に池泉回遊式庭園へと改修工事が行われたが、現存する建物は貝島健次が建てたもの。広間や回廊に居ながらにして四季の美しさに抱かれるような見事な造りとなっている。なお、貝島太助を支えた全盲の弟、貝島嘉蔵の旧宅「旧高宮貝島邸」が福岡市南区高宮に残されており、2017（平成29）年に観光施設として一般公開される予定。楽しみに待ちたい。

⑨福岡市城南区友泉亭1-46 ☎ 092-711-0415 ⑫9:00 ～ 17:00
⑬月曜、12/29 ～ 1/1 ⑭大人200円、小人100円 ＊抹茶サービス300円



「貝島邸跡」

（現在は公園、銅像あり）

貝島太助の本宅が建てられていた場所は、直方駅のすぐ近く。現在は直方市に寄贈され「多賀町公園」として整備されている。邸宅は当時では珍しい三階建ての建物で、小倉に軍医として赴任していた森鷗外も滞在。『小倉日記』の中に「偉丈夫なり」と記していることから、鷗外は太助を好人物として受け止めていたようだ。公園内に建てられている貝島太助の像は、長崎の平和祈念像を造った彫刻家・北村西望の作品。

⑨直方市殿町1



「圓徳寺」

直方駅から徒歩三分の場所にある「浄土真宗圓徳寺」。寺の門前町で幼少期を過ごした貝島太助は、炭鉱事業が軌道に乗ると、寺への感謝の気持ちを込めて本堂の寄進を申し出た。貝島だけでなく、門信徒一同、地域の多くの人々も賛同、棟梁には東本願寺の御影堂を手掛けた宮大工・第9代伊藤平左衛門を招いた。現在も本堂の欄間や柱に施された彫刻は当時のままの鮮やかな色と姿を保っており、見る者を圧倒する。境内には、貝島炭鉱で殉職した作業員たちのための慰霊塔が建てられている。1952（昭和27）年に直方駅前の都市開発により本堂を数百メートル移動。境内だった場所には駅前大通りと須崎公園が造られた。

⑨直方市古町2-7 ☎ 0949-22-0532 ＊門信徒の方が参拝や法用などのため訪れることも多いので、見学の際はご配慮ください。



「成金饅頭」

自身が生まれ育った直方の町を深く愛した貝島太助。町の人々もまた貝島を慕い、地元の名士として尊敬の念を抱いていたという。直方を代表する銘菓のひとつに「成金饅頭」が挙げられるが、この“成金”の由来となったのは貝島太助であるという説が残る。直方の人々は貝島のことを親しみを込めて「成金さん」と呼んでいた。そのことにちなみ貝島が成金饅頭と名付けたと語り継がれている。名称の起源は諸説あるだろうが、貝島が町の人たちに親しまれていたことを物語るエピソードだ。



「九州工業大学（明治専門学校）」

1909（明治42）年、安川敬一郎は「国家によって得た利益は国家のために使うべきである」という理念のもと、巨額の私財を投じて九州工業大学の前身である明治専門学校を設立。これからの日本を担う若者を育てるため、教授には各専門分野の権威を招集し、学校建築は東京駅的设计者である辰野金吾に依頼した（現存せず）。現在の戸畑キャンパス内には、明治専門学校で実際に使用されていた試験機など機械群が屋外展示されており、日本の未来を切り開く若者たちが行き交う姿を見守っている。また、戸畑キャンパス内には安川敬一郎が創立関係者の胸像が建てられている。

⑨北九州市戸畑区仙水町1-1 ☎ 093-884-3000

「西日本工業倶楽部（旧松本邸）」

安川敬一郎と共に明治鉱業をはじめ、黒崎窯業など数多くの事業を運営した次男の松本健次郎（安川敬一郎の兄である松本家に養子として入籍）。父子はそれぞれの自宅を若松から戸畑へと移す。その両家の設計を、明治専門学校の校舎と同じく辰野金吾に依頼している。国の重要文化財に指定されている旧松本邸は1912（明治45）年に完成。現在は西日本工業倶楽部の拠点となっている。広大な敷地内の森に守られるように佇むアール・ヌーヴォー様式の二階建ての洋館。蔓草を思わせるなめらかな曲線が、明治期の洋館が持つロマンティックな雰囲気を醸す。敷地内には書院造りの日本館も造られており、春と秋の年2回に一般公開されるほか、ウェディング会場としても親しまれている。



⑨北九州市戸畑区一枝1-4-33 ☎ 093-871-1031



「ロボット村」

安川第五郎が創業し、現在も日本の産業用ロボット界を牽引し続けているトップ企業、安川電機。2015（平成27）年に創業100周年を記念し、本社事務所をものづくりの魅力やロボットの最新技術などを発信する「ロボット村」としてリニューアル。予約制で見学できる「安川電機みらい館」「ロボット工場」や、自然に親しむ一般開放スペース「YASKAWAの森」を備え、創業より脈々と受け継がれてきた“ものづくりスピリット”を発信している。

⑨北九州市八幡西区黒崎城石2-1 見学時間
☎ 093-645-7705（安川電機みらい館） 9:30～11:10 / 13:10～14:50 / 15:00～16:40
⑪無料 ⑫土・日・祝・安川電機の休日 ＊「安川電機みらい館」「ロボット工場」の見学は予約制

「石炭会館（旧若松石炭商同業組合事務所）」

明治～昭和の歴史ある建物が多く残る若松南海岸通り、通称若松バンドのなかでも最古参。安川敬一郎が組合長を務めた若松石炭商同業組合の事務所として1903（明治38）年に埋立地の南海岸通りに建設された。木造二階建てだが外壁にモルタルを塗り石造り風に。シンメトリーな全体の造りと玄関のドリス式円柱が印象的だ。若松出身の文豪・火野葦平の『花と龍』の文中にも登場。現在も事務所や人気のパン屋がテナントとして入るなど現役で活躍している。

⑨北九州市若松区本町1-13-15



「筥崎宮」

日本三大八幡宮のひとつ、放生会や玉せせり（玉取祭）などでも知られる福岡市東区の「筥崎宮」。海側から本殿に入る正面ではなく、裏側へと廻ってみよう。本殿裏の森へと続く裏門の鳥居。そこには寄贈した安川敬一郎の名が刻まれている。筥崎宮の境内には他にも福岡藩藩主黒田長政が建立した一之鳥居や千利休が奉納したとされる石灯籠などがあり、参拝ついでに歴史散策もできる。

⑨福岡市東区箱崎1-22-1 ☎ 092-641-7431

⑪ 若松港



撮影：蒼

筑豊炭田で採掘された石炭は、船や鉄道で若松港へ集められ国内外へと運び出されていった。筑豊御三家を中心とした鉱業主たちの尽力により護岸工事が行われ、現在の姿に繋がっている。護岸の若松南海岸通には、大正期の姿を残した建物が多く残されており、夜にライトアップされると映画のワンシーンのような雰囲気となる。

☎北九州市若松本町1丁目

⑫ 河内貯水池

八幡製鐵所の工業用水を確保するために造られた貯水池。石積み取水口はまるでヨーロッパの古城を思わせる。堰堤付近には、海外サイトで「世界の絶景10」として一躍話題となった「河内藤園」をはじめ、「河内桜公園」、「ます刈サイクリングロード」などがあり、休日のレジャースポットとしても親しまれている。



☎北九州市八幡東区河内1丁目
☎093-671-0801（北九州市 八幡東区役所 総務企画課）

⑨ 飯塚市歴史資料館



☎飯塚市柏の森959-1 ☎0948-25-2930
9:30～17:00 休日 水曜日（祝日の場合は開館）、12/29～1/3

約2000年前の集落跡である立岩遺跡の出土品約100点をはじめ、縄文時代から古墳時代にかけての出土品を展示。さらに、飯塚地方の近世以降の歴史を、「農村の暮らし」「長崎街道」「石炭の時代」にわけて展示している。そして、伊藤伝右衛門と柳原白蓮の展示コーナーも設けている。

⑩ 五平太船

明治24年に若松～直方間に鉄道が敷かれるまで、若松港までの石炭の運搬を担っていたのは小さな「川ひらた（五平太船）」であり、多い時でその数88,000隻に及んだといわれている。浅瀬の多い遠賀川や堀川での運送のため底が平たい形となっており、川幅の広い遠賀川では大型が、堀川では標準型から小型の船が用いられた。石炭を山積みし若松港へと運んでいく川ひらたで、遠賀川や堀川は賑わいを見せていたという。なお、最下流の遠賀郡芦屋町の中央公民館には、当時のままの川ひらたが保存され屋外展示されている。



■芦屋町中央公民館 ☎遠賀郡芦屋町中ノ浜4-4 ☎093-222-1681
8:30～22:00 休日 毎週月曜日、12/29～1/3

④ 直方市石炭記念館



1971（昭和46）年に開館。筑豊の炭鉱の歴史を資料で展示する本館（旧筑豊石炭鉱業組合の直方会議所を使用）をはじめ、日本一の石炭塊や日本最初的人力車を展示した別館、石炭を原料に鉄鋼や化学薬品などができる様子を解説した石炭化学館、蒸気機関車や電気機関車の屋外展示などがある。敷地内には石炭の原料となるメタセコイアの木が植栽されており、かつて使われていた救護訓練用の模擬坑道も残る。

☎直方市直方692-4 ☎0949-25-2243
9:00～17:00 休日 月曜日（祝日の場合は開館）、12月29日～1月3日

⑤ 直方歳時館

醤油の販売から石炭業に転身し、実業家としても成功を収めた堀三太郎。直方市がその住宅の寄贈を受け、平成11年に改築復元。現在は、純和風建築の生涯学習施設として市民に広く親しまれている。一服300円で抹茶などのサービスあり。一般見学無料。



☎直方市新町1-18 ☎0949-25-2008
9:00～21:00
休日 月曜日（祝日の場合は開館）
12月29日～1月3日

⑥ 旧伊藤伝右衛門邸



炭鉱王・伊藤伝右衛門が柳原白蓮を妻として迎えるため改装した邸宅で、大庭園を含めた総面積は2,300坪。当時の建築技術の粋を集めた和洋折衷の造りで、アールヌーヴォー調のマントルピース、ステンドグラスをはじめ込んだ応接室など、西洋と日本の文化が重なる明治時代独特の美を体現している。

☎飯塚市幸袋300 ☎0948-22-9700
9:30～17:00（入館は16:30まで）
休日 水曜日（祝日の場合は開館）12月29日～1月3日

⑦ 旧藏内邸

伊藤伝右衛門と共に炭鉱王と呼ばれた藏内次郎作が築上町に建てた邸宅は、18畳間が2間続く大広間や12畳もの大玄関間、茶室などを有する和風建築。施工の際には住宅だけでなく隣接する貴船神社の参道や石橋も建設し、地域に貢献している。邸宅には、和風建築でありながら大理石の風呂や金唐草紙という西洋の装飾工芸を和紙で模した貴重な壁紙（現存するのは日本でも数ヶ所のみ）を一部使用するなど、随所に遊び心も見える。



☎築上郡築上町大字上深野396 ☎0930-52-2530
開館 9:30～16:30 休日 火・水曜日（祝日は開館）、12月28日～1月4日

⑧ 東田第一高炉史跡広場



官営八幡製鐵所に日本で初めて造られた超高压高炉。現在は、一帯を指定文化財に指定し高炉を保存公開している。広場内には高炉の他に、八幡製鐵所・東田第一高炉の歴史を紹介したパネルや、溶かした鉄を運んでいた実物の貨車などを展示。一時は老朽化などの理由から取り壊しの危機に直面するも市民の力で高炉全体が保存された“鉄鋼の町・八幡”のシンボル。

☎北九州市八幡東区東田2-3-12 ☎093-582-2391（北九州市 市民文化スポーツ局文化部文化企画課）公開時間 9:00～17:00 休日 年末年始

北九州 筑豊 エリア

産業遺産 巡り

① 旧三井田川鉱業所伊田坑

1900（明治33）年に発足した三井田川炭礦（後の三井田川鉱業所）の堅坑槽と第一・第二煙突は、現在も田川市石炭・歴史博物館により保存されており、石炭産業隆盛の時代を物語る遺産として大切にされている。天高くそびえ立つ巨大な煙突は、「あんまり煙突が高いので～」と「炭坑節」の歌詞にも歌われるほど、人々に驚きを与えた。



☎田川市大字伊田2734-1 石炭記念公園内 ☎0947-44-5745（田川市石炭・歴史博物館）

② 田川市石炭・歴史博物館

石炭記念公園に隣接する博物館。石炭の歴史や炭鉱で働く人々の生活の様子などを、パネル展示だけでなく模型やジオラマの展示で分かりやすく伝えてくれる。屋外展示場には石炭輸送に使われたSLや採掘のための大型機械類を数多く展示。また、産業ふれあい館として炭鉱で働く人の住居・炭住が再現されており、人々の暮らしと当時の雰囲気を垣間見ることができる。同館所蔵の、2011年5月に日本で初めてユネスコ世界記憶遺産に登録された「山本作兵衛コレクション」は必見！

☎田川市大字伊田2734-1 ☎0947-44-5745 9:30～17:30
休日 月曜日（祝日の場合は翌日）、12月29日～1月3日

山本作兵衛コレクション

2011（平成23）年にユネスコ世界記憶遺産に登録された、山本作兵衛の炭坑記録画、日記・雑記帳等。自身も炭鉱労働に従事し「ヤマの絵師」と呼ばれた彼の作品は、ヤマと共に生きる人々の暮らしを目で見たままに詳しく描いており、「子供たちにヤマのある日々を伝えたい」という作者の想いが伝わってくる。



「立ち掘り」©Yamamoto Family
田川市石炭・歴史博物館所蔵

※山本作兵衛コレクションは田川市石炭・歴史博物館に所蔵

③ 三菱鉱業飯塚炭礦石炭巻上機台座



遠目で見ると赤煉瓦の塔のようにも見えるが、かつて三菱飯塚炭鉱の坑内に人を送ったり石炭を積んだトロッキを引き上げるなどの際に使われていたと考えられる巻上機が設置されていた台座。高さ約12メートルで、台座としては県内最大級。時代の経過を感じさせる色褪せた赤煉瓦と、現代の住宅地のコントラストが不思議な風景を創り出す。

☎飯塚市平恒460-8 ☎0948-25-2930（飯塚市歴史資料館）

立役者

伊藤 伝右衛門 (1860 - 1947)

「筑豊の炭鉱王」と聞いて、まず彼の名を思い浮かべる人も多いだろう。筑豊御三家よりわずかに遅い発進ではあったが、40歳で家督を継いだ後はめきめきと頭角を現し、宝珠山炭坑をはじめいくつもの炭鉱を経営。御三家に続く炭鉱王として広く名を馳せるようになった。石炭事業では順風満帆。さらに幅広い事業展開を続けた伊藤だったが、とある事件でその名を広く知られることになる。それが世に言う「白蓮事件」。華族の出身であった歌人の柳原輝子（柳原白蓮）が伊藤の元を出家し、交際相手の宮崎龍介（父は、中国の革命家・孫文を支援した宮崎滔天）と共に駆け落ち。その後新聞に「絶縁状」を掲載したのである。姦通罪が適用されていた時代のこと、日本中の人々の関心を集める一大スキャンダルへと発展していった。しかし、現在観光名所となっている旧伊藤伝右衛門邸の豪華さを見るに、妻を迎えるにあたっての伊藤の想いがどれほど大きかったかを感じさせる。



トリビア！

革命の父と、炭鉱王

中国の辛亥革命を成功に導き「中国革命の父」と呼ばれた孫文。彼が革命活動中に日本へ亡命した際、資金面を含め多大な援助を行ったのが、孫文と親友の絆を結んだ長崎出身の実業家梅屋庄吉と、宮崎滔天（荒尾出身、伊藤伝右衛門の妻・柳原白蓮と駆け落ちした宮崎龍介の父）、福岡の政治結社「玄洋社」である。玄洋社は総帥を務めた頭山満を筆頭に、杉山茂丸（夢野久作の父）、平岡浩太郎（安川と共に赤池炭鉱を起業）、中野徳次郎（亀山炭鉱などを経営／現・志免町）、そして安川敬一郎といった錚々たる面々が名を連ねていた。孫文の日本滞在にかかる費用の多くを安川も負担しており、孫文は感謝の印として安川邸に宿泊した際「世界平和」と記した書をその場で贈っている。その書は長く安川家の家宝として保管されていたが、後に北九州市博物館に寄贈。同館の常設展や企画展などで見ることができる。現在、福岡県と孫文の墓（中山陵）がある中国江蘇省とは友好提携を結んでおり、彼らが繋いだ絆が続いていることを感じさせる。

脇田温泉

嘉穂劇場

旧伊藤伝右衛門邸

直方市石炭記念館

田川市石炭・歴史博物館



《北九州・筑豊エリア》

おすすめ見学ルート



⑪ 中間市地域交流センター



中間市で活躍する
ヒーロー
「ナッカマン」

世界遺産登録で注目の高まる遠賀川水源地ポンプ室。中間市地域交流センターでは、1階にその案内所や中間市歴史資料館などを設け、観光客にも分かりやすく紹介している。車で遠賀川水源地ポンプ室を見学する際は、こちらに駐車して歩いていくと便利。運が良ければ、遠賀川水源地ポンプ室でガイドの「ナッカマン」に会えるかも？

☎ 中間市大字垣生660番地1
☎ 093-245-4665 9:00～18:00
休日 毎週火曜日（火曜日が祝日の場合は翌日）12月29日～1月3日

⑫ 風治八幡宮川渡し神幸祭

田川市で450年近くに亘り続く伝統の祭り。永禄年間にこの地を疫病が襲った際、人々は氏神である風治八幡宮にその終息を祈願した。その成就のお礼として奉納されたことが起源とされる。見どころは、神輿や山笠が彦山川を渡る川渡し神事。毎年5月に行われ、多くの観光客が見学に訪れる。



☎ 田川市伊田（彦山川周辺） ☎ 0947-44-2000（田川市商工観光課）
開催時期／毎年5月第3土曜日とその翌日

⑬ TAGAWAコールマイン・フェスティバル～炭坑節まつり～

炭坑節の発祥の地・田川の歴史と文化を後世に伝えるため平成18年より「TAGAWAコールマイン・フェスティバル～炭坑節まつり～」が毎年11月の第1日曜とその前日の土曜に田川市石炭記念公園にて開催されている。フリーマーケットや炭坑節総踊りなど催し盛りだくさん。夜には二本煙突と堅坑槽のライトアップなど、ロマンチックなひとときを過ごすことができる。

☎ 田川市石炭記念公園
☎ 0947-44-2000
（田川市商工観光課内 TAGAWAコールマイン・フェスティバル実行委員会）
開催時期／毎年11月の第1日曜日とその前日

◆ 西鉄バス ☎ 0570-00-1010

・北九州市都市圏1日フリー乗車券 大人券720円 小児券360円
・官営八幡製鐵所旧本事務所眺望スペース周遊バス（土日祝日のみ運行）
無料ノースペースワールド駅～官営八幡製鐵所旧本事務所眺望スペース～北九州イノベーションギャラリー

◆ 北九州市営バス 1日乗車券 大人券700円 子供券350円

☎ 093-771-8401（北九州市交通局総務経営課）

◆ 平成筑豊鉄道(株) ☎ 0947-22-1000

◆ 筑豊電気鉄道(株) ☎ 093-243-5525

ラッピング電車「世界遺産遠賀川水源地ポンプ室」号が「黒崎駅前」駅～「筑豊直方」駅間を運行中！（～平成28年6月末予定）

◆ 直方市コミュニティバス ☎ 0949-25-2155

⑧ 藤江氏魚楽園



伝説の画僧「雪舟」が中国で学んだ山水の技術を活かし築庭したとされる庭園。春は桜、夏は緑、秋は紅葉、冬は雪化粧…と、自然と一体となった四季の美しさで訪れる者に感動を与えてくれる。

☎ 田川郡川崎町大字安真木6388
☎ 0947-72-7777 9:00～16:00
休日 月曜日（祝日の場合は翌火曜日）、第3火曜日 大人300円、高校生以下100円

⑨ 上野焼陶芸館

高取焼と並び、茶人・小堀遠州が選定した全国七カ所の窯元「遠州七窯」のひとつ、上野焼。伝統的薄づくりの製法と現代の機能美を掛け合わせた唯一無二の器が展示・販売されている。喫茶室では上野焼カップでコーヒーを楽しめる。



☎ 田川郡福智町上野2811-1
☎ 0947-28-5864
10:00～17:00 休日 火曜日

⑩ 北九州市立いのちのたび博物館

奥行き100メートルの展示室にティラノサウルス・レックスとセイスモサウルスなどが並ぶ。展示室は、地球の誕生と生命の歴史を見る「自然史ゾーン」、北九州エリアの暮らしと文化について学べる「歴史ゾーン」、東アジア交流コーナーや子どもミュージアムなどを設けた「共通ゾーン」に別れており、ストーリー感のある展示スタイルは圧巻。大人でも時間を忘れて夢中になること間違いナシ。

☎ 北九州市八幡東区東田2-4-1 ☎ 093-681-1011
9:00～17:00 休日 年末年始、6月下旬ごろ約1週間（害虫駆除）
常設展：大人500円、高校生・大学生300円、小中学生200円、小学生未満無料



③ お菓子文化



炭鉱の隆盛と共に花開いたのが、お菓子文化である。炭坑従事者たちは日々の重労働で甘いものを好む人が多く、また経済的にも潤っていたため嗜好品である砂糖をたっぷり使ったお菓子が飛ぶように売れた。福岡を代表する名菓「千鳥饅頭」「ひよ子」も、時代を物語るお菓子のひとつ。

■ 千鳥屋本家飯塚本店 飯塚市本町4-21 ☎ 0948-22-0831
■ ひよ子本舗吉野堂飯塚店 飯塚市本町15-1 ☎ 0948-22-0145

④ 料亭金鍋

炭鉱景気に沸く明治20年代に創業し、九州初の牛鍋料理屋として人気を博す。「花と龍」「麦と兵隊」などで知られる若松出身の文豪・火野葦平にも愛され、彼がよく利用した部屋は「葦平の間」と呼ばれる。ファンのみならず多くの人が訪れ、美味しい料理と古き良き時代の雰囲気を楽しんでいる。国登録有形文化財に指定されている建物も一見の価値アリ。



☎ 北九州市若松区本町2-4-22 ☎ 093-761-4531（完全予約制）
11:00～15:00、17:00～22:00 休日 不定休

⑤ ねこのじterasu



若松南海岸通りに店を構える小さなお店。1階の「キッサネコノジ」の大きな窓からは若松港が一望できる。歴史散策に疲れたら、のんびりと時間を忘れて過ごしたくなるカフェでティータイムを楽しもう。他にもお店の1階や2階には、それぞれ雰囲気の異なる雑貨屋さんなどが入っており、何度も訪れたくなるスポット。

☎ 北九州市若松区本町1-11-14 ☎ 080-1771-7670
11:30～17:00 休日 日曜日

⑥ 道の駅おおう桜街道

敷地面積3万7千平方メートルを誇る日本最大級の道の駅。地元の新鮮な農産物などが揃う物産館「もみじ館」と、温浴施設「さくら館」が並ぶ。さくら館は、大浴場、露天風呂、サウナに加え、シルキー湯、釜風呂、家族風呂など種類豊富。旅の疲れを癒し気分もリフレッシュできる。総工費1億円の「優美トイレ」も一見の価値あり！



☎ 田川郡大任町大字今任原1339
☎ 0947-63-4430（もみじ館） ☎ 0947-63-4126（さくら館）
直売所 9:00～18:30、食事 10:00～20:00、温泉 10:00～22:00（季節によって変動あり）休日 年末年始

⑦ NERO BOTANICA（ネロボタニカ）



ボタ山をイメージした半ピラミット型のスタイリッシュな建物に、人気の飲食店やセレクトショップが集う。

☎ 飯塚市忠隈71-4

北九州 エリア 筑豊

観光

グルメ

ホルモン料理（田川／飯塚）

石炭産業が盛んだった頃に誕生し田川・飯塚の家庭でもよく食べられていた、ホルモン料理。炭鉱の仕事で毎日体力を消耗する労働者たちにとって、安価で美味しくスタミナもつくホルモンはまさに理想食だったのだ。現在、田川市では「田川ホルモン鍋」、飯塚市では「ほるホルめし」が名物となっており、ホルモン料理を求めて両市を訪れる人も多い。



■ 田川ホルモン鍋 田川ホルモン喰楽歩 検索
■ ほるホルめし 飯塚観光協会 ☎ 0948-22-3511

① お石灰蒸し料理



石灰・セメントの町の新名物。石灰が水に濡れると発熱する特性を活かし、生石灰を蒸し釜に入れ水を掛け火を使わずに蒸し料理を完成させる。その名も「お石灰蒸し」。料理を提供するのは、料亭「あをぎり」。料理だけでなく国の登録有形文化財に指定された建物も必見。また、「あをぎり」ではボタ山をイメージした黒い「ボタ山かれー」も人気。

☎ 田川市新町21-28 ☎ 0947-42-1251
11:30～14:00、17:00～22:00（夜は完全予約制） 休日 月曜日

八幡ぎょうざ

八幡製鐵所で働く鉄鋼マンがスタミナのつく餃子を好んで餃子文化が根付いたとか、中国との鉄鉱石取引がはじまって餃子文化も到来したとか、起源は諸説ある。餃子の種類も、鉄なべ系、本場中国系、豚骨スープを使ったラーメン系などさまざまなが、八幡っ子の餃子への愛は、一貫している。宇都宮や浜松などにも負けない八幡ぎょうざを食べ歩いてみよう。



八幡ぎょうざ協議会 検索

② おいしい地酒



飯塚市の酒蔵「瑞穂菊酒造」、嘉麻市の「寒北斗酒造」など、筑豊とその周辺地域には日本酒ファン垂涎の上質な地酒を醸す酒蔵が点在している。飲食店で味わうもよし、酒販店でお土産として購入して帰るもよし。

■ 瑞穂菊酒造 飯塚市天道375
☎ 0948-22-1050 8:30～18:30 休日不定休
■ 寒北斗酒造 嘉麻市大隈町1036-1
☎ 0948-57-0009 9:00～17:00 休日なし

二日市温泉

太宰府天満宮

藤江氏魚楽園

料亭あをぎりでランチ

田川市石炭・歴史博物館

道の駅おおう

源じいの森（前泊）

北九州・筑豊エリア



おすすめ見学ルート

⑪ 化学コンビナートの夜景



撮影地：宮浦公園

石炭から出るコールタールやガスを使った染料や医薬品などの精製する化学工場が増加し、化学コンビナートが形成されていった。現在も工場は現役で活躍しており、夜間まで照明が灯される姿は、夜景スポットとして新たな大牟田名物となっている。

⑩ 三池炭山創業碑



笹林公園の敷地内に設置された三池炭鉱創業を記念する石碑。三池炭鉱が旧三井物産に買い取られる以前、1469（文明元）年の炭坑発見から始まる藩営・官営時代を中心とした三池炭鉱の歴史が石碑の裏に刻まれている。

㊤大牟田市笹林町1丁目（笹林公園内）

⑤ 宮浦石炭記念公園

三池炭鉱の主力坑口のひとつ、宮浦坑。その跡地に作られた宮浦石炭記念公園は、ボイラー排煙のための巨大煙突や、当時掘られていたトンネル（大斜坑）の坑口、作業員を運ぶ人車などが展示されている。なお、大牟田市内には石炭の原料となるメタセコイアの木が各地に生えている。

㊤大牟田市西宮浦町132-8



大牟田

エリア

産業遺産巡り

① 旧三池集治監外堀および石垣

（現・県立三池工業高校）



1883（明治16）年に設置された三池集治監（現代の刑務所）の壁が今も残る。2000人が収容され、受刑者たちは三池炭鉱での採炭作業に従事していた。現在この場所には三池工業高校が建つ。

㊤大牟田市上官町4-77

② 旧三井港倶楽部

三池港整備により石炭産出量が増大した三池炭鉱は、日本経済の一翼を担う存在となっていた。「三井港倶楽部」は、政財界人、海外船の船員をもてなすサロンや宿泊場所として、三池港と同時期に造られた。現在は、館内のレストランで食事を楽しむことができる。



㊤大牟田市西港町2-6 ☎0944-51-3710
11：30～14：30、17：00～21：00（予約制） 休日 火曜日
※ウェディングやイベントなどで貸切使用の場合あり。

③ 旧長崎税関三池税関支署



建物は、木造平屋建、入母屋造に切妻造付き、棧瓦葺一部銅板葺で、三方の出入り口をもつ土間で関税の手続きが行われていた。当時は本館および附属建物から成っていた。

㊤大牟田市新港町1-25
※公開は土・日・祝、10:00～17:00

④ 大牟田市石炭産業科学館

石炭の歴史から炭鉱技術の歩み、三池炭鉱と大牟田市の歴史を詳しく知ることができる資料館。石炭に関する常設展示のほか、炭鉱の様子を紹介する模擬坑道、エネルギーや環境問題の企画展など、楽しみながら学べる仕組みが盛りだくさん。



㊤大牟田市岬町6-23 ☎0944-53-2377
9:30～17:00 休館日 毎月最終月曜日（2015年8月～2016年3月）、12/29～1/3

⑥ 大牟田市役所本庁舎旧館



石炭産業が隆盛を極めた1936（昭和11）年に完成した市庁舎。中央に塔屋4階を中心にシンメトリーを成しており、昭和初期の官庁建築の特徴が随所に見られる。市街地が第二次世界大戦の戦火で焦土化するなか戦火を耐え抜き、現在もその役割を果たし続けている。

㊤大牟田市有明町2-3
☎0944-41-2222

⑦ 三川坑跡

昭和期の三池炭鉱の主力坑となった三川坑。第一斜坑、第二斜坑の2つの坑口があり、長さ2キロ以上、最深部の坑道は海面下520メートルにあり「大斜坑」と呼ばれた。三池争議や、死者約460名の三川坑炭じん爆発事故の現場でもある。1997（平成9）年の閉坑以降閉鎖されていたが現在週末限定で一般公開。



㊤大牟田市西港町2丁目 ※公開は土・日・祝、10:00～17:00

⑧ 旧三川電鉄変電所（現・（株）サンデン本社屋）



三池炭鉱専用鉄道の変電所として使用されていた煉瓦造りの建物。炭鉱閉山後、気概ある地元企業が三井鉱山に申し入れ、購入。補修工事を行い、現在も社屋として活躍し続けている。見学は外観のみ可能。

㊤大牟田市新港町1-30

⑨ クレーン船「大金剛丸」

1905（明治38）年に大阪築港会社より中古として購入された英国製のクレーン船。現在もなお活躍し続けている100年選手。黄色いボディはもとは木製だったが昭和に入り鋼鉄製に変更。クレーン部分は明治期のまま。原動機はいまも蒸気、燃料は石炭。クレーン最大吊上げ能力15トン。



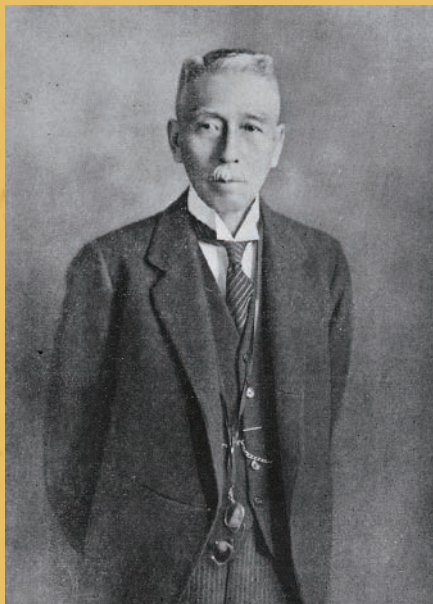
㊤大牟田市新港町1（三池港内） ※埠頭から見学可能

立役者

團琢磨

（1858 - 1932）

福岡藩士の子として生まれ、藩の勘定奉行を務めた團尚静の養子に迎えられ。藩校修猷館に学び、1871年に13歳で岩倉使節団に同行して渡米、留学する。マサチューセッツ工科大学で鉱山学を学んだ後、1884年工部省に入省し、三池炭山に勤務。しかし、1888年に三井が三池炭鉱を落札。職場を失った團は福岡県庁に入庁予定であったが、その才能を買っていた三井社長が、「三池の落札価格には團の価値も入っている」と主張し、福岡県庁の2倍以上の給金で團を招聘した。以降、團は、1889年三井が組織した三池炭鉱社の最高責任者である初代事務長に就任し、宮原や万田など各坑の開削や三池港築港の指揮を執るなど、近代化の推進に大きく貢献した。晩年は、経団連の前身である日本経済連盟会の初代会長にも就任。三池港築港に際し「石炭山の永久ということはありはせぬ。築港をやれば、そこにまた産業を興すことができる。築港をしておけば、いくらか百年の基礎になる」という言葉を残している。明治という混沌の時代において目先の利に囚われず未来を見通す目を持っていた彼の言葉の通り、三池港は築港より100年後の現在、国際物流の拠点として稼働し続けている。



トリビア！

三池炭鉱で働く人たちの必需品ともいわれたのが、「地下足袋」だ。この地下足袋を開発したのは、江戸時代に井上伝が考案した「久留米糲」の仕立屋に端を発する足袋店「志まやたび（現・（株）アサヒコーポレーション）」と「つちや足袋（現・（株）ムーンスター）」といわれている。両社は独自の研究のすえ、足袋にゴム底を貼付けた「地下足袋」を考案。これを三池炭鉱で働く人たちに試着してもらったところ、すべりにくくとても良いと好評を得て、全国に広がった。地下足袋という名前は三池炭鉱従事者が「地下」で履く「足袋」だからといういわれもあるほど。地下足袋の技術が発展し、ゴム靴の生産、海外への輸出、そして世界的なタイマーカー「（株）ブリヂストン」が誕生。三池炭鉱には、このように、県南地域の発展を支えた伝統工芸と、現在でも基幹産業であるゴム産業と深い繋がりがあったのである。

大牟田駅

←

旧三井港倶楽部

←

旧長崎税関

←

万田坑

←

宮原坑

←

宮浦石炭記念公園

←

石炭産業科学館

←

大牟田駅（レンタサイクル）



《大牟田エリア》

おすすめ見学ルート



⑫ 八女伝統工芸館



全国屈指のお茶の名産地として知られる八女。実は灯籠や人形、仏壇など、ものづくりの里としても知られている。そうした八女地域の工芸品を中心に展示販売。観光物産館や民俗資料館なども近くにあるので、お土産選びに便利。

☎八女市本町2-123-2 ☎0943-22-3131 9:00～17:00
休日 月曜日（祝日の場合は翌日）、12/28～1/4

⑬ 柳川川下り

大牟田市街地から車で30分ほどで到着する柳川市。水郷と呼ばれる通り、市内を縦横に走る掘割を、どんこ舟でのんびりと進んでいく「川下り」は、一度は体験しておきたい。川下りを楽しんだ後は、名物・うなぎのせいろ蒸しを味わおう。

■松月乗船場
柳川市三橋町高畑329



おとくなぎっふ

西鉄電車「大牟田ぶら～っと炭訪きっふ（期間限定）」
☎0570-00-1010

西鉄電車往復乗車券（出発駅⇨大牟田駅）と、タクシー乗車の利用、洋風かつ井やお好み焼きなどの食事、お土産などに使える大牟田名物利用券3,000円分（1,000円×2枚、500円×2枚）

《大牟田駅》

レンタサイクル

1日 500円、1時間150円／30分毎に50円（西鉄大牟田駅 ☎0944-53-0071）
1日 500円（大牟田観光プラザ ☎0944-52-2212）

レンタカー

トヨタレンタカー大牟田店 ☎0944-52-0100
ニッポンレンタカー大牟田店 ☎0944-51-8696
タイムズカーレンタル大牟田駅前店 ☎0944-43-4300

⑩ 普光寺



三池山の中腹にある普光寺は、823年に開山された天台宗の古刹。境内にある「臥竜梅（がりゅうばい）」と呼ばれる梅の木は、その姿が龍が伏せているように見えることから名付けられた。八重咲きの紅梅で、県の天然記念物にも指定されている。

☎大牟田市今山2538
☎0944-51-2966

⑪ 満月の湯

100%天然温泉として地域の人たちに愛されている温浴施設。露天、サウナを含め15種類以上のお風呂があるので、何度訪れても新鮮な発見がある。

☎大牟田市新勝立町6-37
☎0944-53-8126
10:00～23:00



おおむた大蛇山まつり



毎年7月下旬に行われる伝統行事。毎年新たに作られる、迫力満点の大蛇を飾り付けた山車「大蛇山」を、数百人の引き手が鐘や太鼓を打ち鳴らしながら町中を勇壮に練り歩いていく様子は圧巻。

■おおむた『大蛇山』まつり振興会
☎0944-57-6310

⑤ 「洋風かつ井」

戦後、焼け野原となった大牟田の街で復興のシンボルともなった「松屋デパート」。大牟田の子供たちにとって松屋デパートのファミリー食堂で食べる「洋風かつ井」は憧れの的。しかしデパートの閉店と共に姿を消してしまった。その幻のメニューが、市内飲食店により復活。店先に専用のぼりのある店で味わうことができる。



■おおむた洋風かつ井研究会
（大牟田商工会議所）
☎0944-55-1111

⑥ 「二番の焼豚足」

厳選した国産の豚足をじっくりと煮込み、炭火で一本ずつ丁寧に焼き上げる。外はカリカリ、中はトロトロ。豚足が苦手な人もファンになってしまう逸品。お取り寄せも可能。

■やきとり二番
大牟田市大正町1-3-5
☎0944-56-9245
17:00～翌5:00



⑦ 大牟田市動物園



1941（昭和16）年開園の歴史ある動物園。ホワイタイガーの展示が行われており、行楽シーズンにはファミリーやグループで動物とのふれあいを楽しむ姿が多く見られる。

☎大牟田市昭和町163
☎0944-56-4526
9:30～17:00（12月～2月は16:30まで）
※閉園30分前には入場不可
休日 第2・4月曜日、12/29～1/1

⑧ 三池カルタ・歴史資料館

日本のカルタは、ポルトガルからの影響を受けて16世紀末頃に三池地方で誕生したといわれている。カルタ発祥の地を記念して建てられた同館は、カルタと郷土の歴史を貴重な資料展示で紹介している。

☎大牟田市宝坂町2-2-3
☎0940-53-8780
10:00～17:00
休日 毎月最終月曜日
12/29～1/3



⑨ 道の駅「おおむた」花ぷらす館



シンボル「大蛇山」がお迎えする大牟田の東のゲートショップ。春はたけのこ、夏はドラゴンフルーツ、秋はみかん、冬はあまおうなど、四季折々の旬の野菜や果物が並ぶ。

☎大牟田市四箇新町2-1
☎0944-50-1187
9:00～18:00

大牟田エリア

観光

グルメ

① 「草木饅頭」

大牟田で古くから愛され続ける蒸し饅頭。500円玉より少し大きいくらいのサイズで、素朴な甘さが優しい。炭鉱で過酷な労働に従事する人々に一服の癒しを与えた存在。



■総本家黒田家
大牟田市大字草木177
☎0944-52-5707 7:30～20:00（草木本店）
■江口栄商店
大牟田市大字草木1020-1 ☎0944-52-4829
8:00～20:00（本店）

② 「くろころみかん」



大牟田名物の上内みかんを、石炭をイメージした黒い求肥でまると包み込んだ大福。見た目のインパクトもさることながら、甘く瑞々しい上内みかんの美味しさが最大限に生きている。

■お菓子のキタハラ
大牟田市大字吉野877-11
☎0944-58-0915
8:00～19:00

③ 「せきたん飴」

大牟田に数多くある石炭をイメージしたお菓子の先駆けともなった存在。不揃いの黒い飴は、まるで本物の石炭のよう。ハッカの爽やかな香りで、お土産にぴったり。



■城屋市役所前店
大牟田市不知火町1-1-3
☎0944-52-4659
8:00～19:00

④ 「高専ダゴ」



有明高専の学生に愛された食堂で、若者にお腹いっぱい食べてほしいと考案されたお好み焼き。鉄板を埋め尽くすような巨大なお好み焼きに手作りのソースをたっぷりかけていただきます！

■高専ダゴ 新みつや
大牟田市大字倉永1678
☎0944-58-1711
11:00～21:00



船小屋温泉 ← 水田天満宮（恋木神社） ← 八女伝統工芸館 ← 柳川でランチ・川下り ← 万田坑 ← 宮原坑 ← 石炭産業科学館



（大牟田エリア）
おすすめ見学ルート



幻の鉄道 油須原線 赤村トロッコが走る！

石炭運搬のために飛躍的に発達した筑豊エリアの鉄道。戦後、田川郡赤村を通る油須原線も、石炭産業を支える動脈の一本となるため開業に向けて準備が進められていた。しかし、石炭産業の斜陽と共にその計画は暗礁に乗り上げる。鉄路も完成しあと一歩といった所で、油須原線は廃線となった。それから半世紀以上を経た現在、油須原線はトロッコ列車が走る観光鉄道として新たな人生を歩んでいる。かつて炭鉱の坑道を走っていたトロッコを観光トロッコとして運用しているのだ。山の深い緑を傍に見ながら走り、トンネル内の終点へ。黒いダイヤではなく子どもたちの笑顔を運ぶ鉄道として多くの人に愛されている。



乗車場所 平成筑豊鉄道 赤駅（田川郡赤村内田1166-2）
 運行日 毎月第2日曜（8月は第1日曜）※12月～2月は運休
 時間 10:00～16:00 ※30分間隔
 寄付金 中学生以上300円、小学生150円
 問 ☎0947-62-3000（赤村役場政策推進室）

平成筑豊鉄道

列車に揺られて筑豊をゆく。

明治中期以降、筑豊炭田で掘り出された石炭を若松港へと運搬する役目を担うようになったのは鉄道だ。1891（明治24）年に「筑豊興業鉄道」が開業し、まずは若松と直方を結ぶ路線が開通。直方を集約地として各地の炭鉱へと路線を伸ばしていった。その後、鉄道は国有化され炭鉱の閉山と共に多くの路線は廃線となったが、現在は福岡県と沿線自治体が出資し1989（平成元）年に誕生した「平成筑豊鉄道」へと運営が引き継がれ、一部路線が現役で活躍している。

筑豊炭田に関する施設などの多くが閉山後に姿を消してしまったことを思えば、この鉄道こそが、「生きた炭鉱遺産」とも呼べるのではなからうか。石炭を燃料とする蒸気機関車から軽油を燃料とするディーゼルカーへ変わり、車窓の風景も時代と共に変化してきた。しかし、のんびりコトコト揺れながら筑豊の町を繋いでいく列車の姿は、どこか郷愁を帯びた懐かしさを感じさせる。線路が繋ぐ、筑豊の昔と今。列車に揺られて体感する旅も、素敵。



直方駅

レトロモダンな建築物を歩く殿町通り



直方駅から歩いて10分弱の距離に、レトロな雰囲気に満ちた「殿町通り」がある。洋館造りの病院を改修した「直方谷尾美術館」をはじめ大正・昭和期に建てられた建築物が今も残る。

赤池駅

上野焼の魅力にふれる



江戸中期の茶人・小堀遠州が全国から選り称賛した遠州七窯のひとつに数えられ、多くの茶人たちに愛された上野焼。現在も多くの窯元が400年の伝統を守り継いでいる。赤池駅よりコミュニティバスで約15分。

田川伊田駅

炭鉱の歴史を学び田川の伝統に触れる



かつて三井田川鉱業所伊田坑で栄えた駅。駅の横にある通用路を通して石炭記念公園をぬけると、田川市石炭・歴史博物館へ到着。炭鉱の歴史を学ぶことができる。

源じいの森駅

駅からすぐに大自然



豊かな緑の中で、温泉や宿泊施設、ロジやバンガローなど、自然とのふれあいを楽しむ施設が充実している「自然学習村 源じいの森」。施設名を冠しているとおりに駅近く、便利。

行橋駅

蓑島は夏も冬も魅力満載



周防灘を臨む蓑島の海岸は、日本自然百景にも選ばれた美しい遠浅の浜辺。春は潮干狩り、夏は海水浴、冬になればカキ焼き小屋…と、季節ごとの楽しみ方ができる。

第一坑跡

宝珠山炭坑閉山後、坑道は封鎖されたものの今も坑口を見ることができる。第一坑口は鉄格子が填められた奥に未だ坑道が続いており、湧き水が流れ出している。

㊟朝倉郡東峰村宝珠山（東峰自然公園内）



竹の棚田火祭り



日本の棚田百選に選ばれた竹地区の棚田。毎年6月の田植え時期が終わる頃に行われる火祭りでは、約1,200本の手作りトーチを棚田に灯す。棚田の水面に揺れる光が幻想的な景色を生み出す。

㊟朝倉郡東峰村大字宝珠山宇竹
☎ 0946-72-2311（東峰村宝珠山庁舎）

高取焼宗家



初代福岡藩主・黒田長政が朝鮮半島より陶工を連れ帰り、直方市鷹取山に窯を築かせた御用窯「高取焼」。始祖・八山は茶人・小堀遠州にその才能を見出され指導を受け、「綺麗さび」の世界を確立した。上野焼と共に「遠州七窯」に数えられ、現在はワシントンのスミソニアン・フリーア美術館にも作品が収蔵されている。現在、高取焼中興の祖といわれる静山の子孫、第13代八山が高取焼宗家として伝統を受け継ぐ。

㊟朝倉郡東峰村小石原鼓2511 ☎ 0946-74-2045

英彦山スロープカー

日本三大修験道の霊場として人々の信仰を集めてきた霊山。英彦山神宮奉幣殿までの参道をトレッキング気分を楽しむのもいいけれど、スロープカーで手軽にのんびりと景観を楽しむこともできる。

㊟田川郡添田町大字英彦山1478（神駅）☎ 0947-85-0375

英彦山神宮

古来から“日子の山”と呼ばれてきた英彦山にある神宮。入口の銅（かね）の鳥居から続く石段を歩き奉幣殿へ。さらに山道を登っていくと上宮に到着。道が険しいので参拝の際は動きやすい格好で。

㊟田川郡添田町大字英彦山1
☎ 0947-85-0001

炭鉦王と希代の名優ゆかりの地

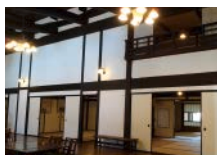
東峰村

日田彦山線の列車に揺られてやって来たのは、福岡と大分の県境に位置する東峰村。かつてこの地には筑豊の炭鉦王・伊藤伝右衛門が経営した宝珠山炭坑があり、村は多くの炭鉦労働者たちで賑わっていた。特に大規模だった第一坑の坑口周辺には、事務所や鉦員たちの住む集合住宅、診療所、浴場などの施設が整備された。さらに東峰村には、あの日本を代表する名俳優のエピソードも残っている。



いぶき館

かつては宝珠山炭坑の幹部社員たちの社交サロン「炭鉦クラブ」として使用されており、伊藤伝右衛門が飯塚市の邸宅の一部を移築した建物。炭鉦閉山後に現在の場所へ再移築され、2000（平成12）年までの30年間旅館として使用されていた。現在は資料館として多くの人に愛されている。



㊟朝倉郡東峰村福井2296-1
☎ 0946-72-2232

小石原焼伝統産業会館

約350年の歴史を持ち「用の美」を確立した小石原焼。同館では、古窯跡や現存する古陶、のぼり窯、小石原焼の代表作などを展示。歴史と伝統を知ることができ、陶芸体験施設もある。



㊟朝倉郡東峰村大字小石原730-9
☎ 0946-74-2266

平尾台や筑豊地域で産出される石灰石や石炭の運び出しのために敷設された路線で、JR九州の路線として運行を続けている。通勤通学の足としてはもちろんだが、英彦山や東峰村、日田など各観光地へも繋がっていることから行楽シーズンに賑わいを見せる。そして日田彦山線の大きな魅力が、山間の線路を走る列車とそれを包み込む自然の美しさだ。休日にはとっておきの一枚を撮影しようとファインダーをのぞくカメラマン、鉄道ファンの姿が見られる。

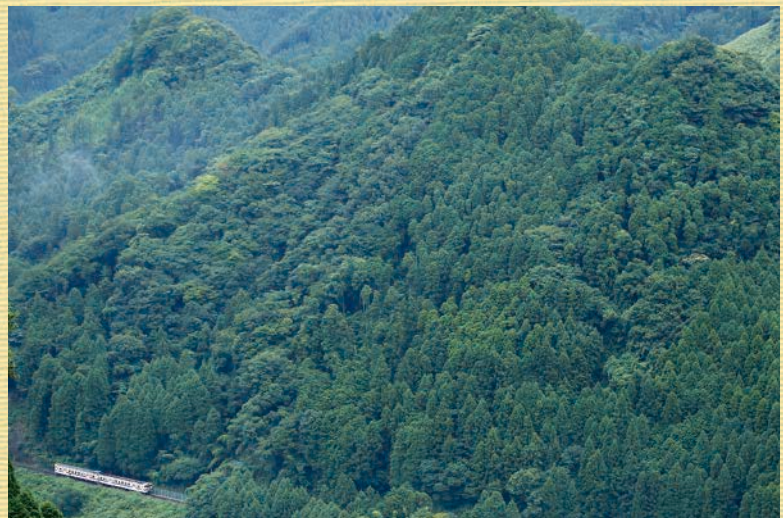
鉄っちゃん・鉄子も
涙する絶景



カメラ片手に 日田彦山線へ



『造形美』



『鳥になりて』



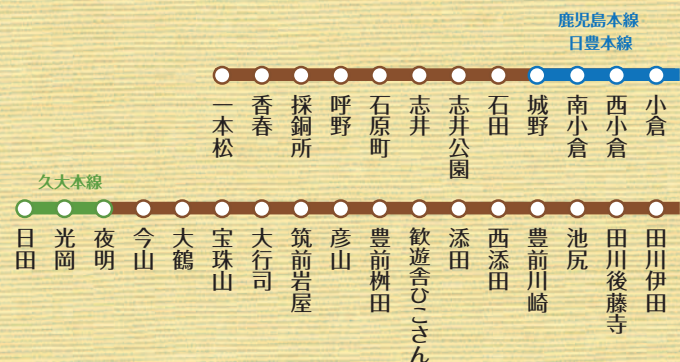
『山間の春』



『宝珠山の春』



『斜陽』



写真提供：日田彦山線活性化推進沿線自治体連絡会
事務局：北九州市総務企画局政策部企画課 ☎093-582-2158
<http://www.hitahiko.jp/>

トリビア！

日田彦山線大行司駅のホームに降り立つと、木造の趣のある駅舎とともに、映画のワンシーンを思い起こさせる何ともいえない光景に出会える。また、駅にほど近い「いぶき館」は、伊藤伝右衛門と柳原白蓮に関する資料が公開されているほか、福岡県出身の著名人が、子どもの頃、宝珠山炭坑に勤める父の元を度々訪れていた縁から、当時の思い出の品や氏の作品に関する数多くの資料が収蔵されているのだ。時間があれば、ぜひ立ち寄りたい。

伊藤伝右衛門と柳原白蓮の足跡、郷土の誇りを訪ねるルート

